

秋建時報

秋建時報

平成21年9月1日(第1185号)



発行／(社)秋田県建設業協会
秋田市山王四丁目3番10号
TEL 018(823)5495
FAX 018(865)2306

<http://www.a-kenkyo.or.jp>



メキシコ原産などと聞いてもピンとこない寂しさが漂う。この国には、多くの場所にコスモス街道があり、車で通る人の目を楽しませてくれる。日本人の美感と優しさがうかがえる。

「JCS」 絵・文：白澤 恵舟

格差と無駄

会長 菅原 三朗

公共事業等を徹底的に削減し、小さな政府を目指した「小泉・竹中構造改革」が打ち出した「増税無き財政再建」は、政策的に大きな間違いを犯したのである。

政策を正当化するために、公共事業が槍玉に挙げられ、財政問題を先送りするスケープゴートにされたといっても過言ではないだろう。

「増税無き財政再建」から、公共事業は無駄という間違った観念が世の中の常識として形成され、市場原理主義に経済をゆだね、その産物が「格差」である。

その「格差」が国全体を暗く憂鬱なものにしてしまった。

個人所得の格差が平等社会を崩壊し、都市と地方の格差が地方社会の崩壊を引き起こした。公共事業の大幅な削減が地方経済の疲弊や地域コミュニティの崩壊という国の発展を危うくする事態を引き起こしてしまった。

このような背景の中、地方の建設産業

は、厳しい経営環境下にも関わらず、良質な社会資本整備を目指し、また、地域の基幹産業の一つとして、社会資本整備の担い手としてだけでなく、地域の経済・雇用に大きく貢献しているとの自負のもと、災害時における初動活動や冬季交通の確保等を通じて、県民の安全・安心の確保に積極的に取り組んできた。

秋田県の平成20年度投資的経費はピーク時の平成8年度の37%まで落ち込み、地方の建設産業の経営状況は限界を超えている。

一方、地方の少子高齢化社会は、中山間地に住み、村を守り、国土保全に努めており、これからは、高齢化社会と共存する社会資本整備、福祉・医療につながる地方版公共投資が重要である。

地方の再生と格差是正に向けた社会資本整備の在り方が今問われている。

平成21年度予算において、道路特定財源制度が廃止され、変わって、道路を中心しつつ、地方の実情に応じて、関連する他のインフラ整備やソフト事業も対象とした「地域活力基盤創造交付金」が創設された。

これは、高齢者住宅前の除雪や、公共

施設内道路のバリアフリー化、交通安全・防犯ボランティア活動支援、スクールバス、コミュニティバス等の導入等々「効果促進事業」と本来の「地方道路整備事業」の用途割合の制約があるものの、まさに地方が抱える課題解決に大きな効果を期待するところである。

今後、本来の道路整備費は減少傾向が続くと思われるが、高齢化社会を迎えた地方に住む人々の安全・安心の確保や、格差のない豊かな生活実現のための社会資本整備は今なお重要な課題であり、地域経済の再生のため、交付金の継続・拡充を望むところである。

わが国は、税収の二倍の国家予算を組んでいる支出超過の国家である。税収が不足するのであれば増税するしかないのは自明ではあるが、現在の経済の状況から増税するわけにもいかない。不用品支出を最大限に抑えるというのも正論ではある。

しかしながら、「先ず無駄使いの徹底的削減」と言っていることは大いに気になる。

またぞろ「無駄な公共事業の削減」か。これ以上の公共事業の削減は何としてでも止めなければならない。

＝社会貢献活動推進月間中央行事＝

仙北建友会、雄勝建研究会が功労者表彰

(社)全国建設業協会(浅沼健一会長)は7月29日、東京・大手町の経団連会館で建設業社会貢献活動推進月間中央行事を開催した。

社会貢献活動の功労者表彰として災害復旧支援や環境美化、社会福祉活動などで功績のあった地方協会・支部、会員企業を51者表彰したほか、事例発表、記念講演を行った。

本県からは、(社)秋田県仙北建設業協会建友会が「角館の桜まつりにおける車両誘導」、また、(社)雄勝建設業協会建研究会が「雄勝地域不法投棄クリーンアップ活動」で功労者表彰を受賞。

開会にあたり浅沼会長は「建設業界は

極めて厳しい状況にあり、未曾有の危機に瀕している。建設業界の活動を理解してもらうことは社会資本整備に対する正しい理解の促進にもつながる」とあいさつした。

つづいて来賓の小澤敬市国土交通省官房建設流通政策審議官は「地域建設業は経済、雇用、を支える大きな役割を果たしている。良い活動をして国民の目線は厳しいのが実情だが、活動を通じて他の良い効果も生まれるはずだ。」と述べた。

記念講演では、(財)建設経済研究所研究理事 丸谷浩明氏が「地域建設企業の災害時における事業継続について」をテーマに講演した。



建友会 大和会長



建研究会 菅前会長

建設振興議員連盟・協会

国交省所管事業に係る22年度重点事業を要望

秋田県議会建設振興議員連盟(北林康司会長)と県協会では、7月27、28日の両日、脇雅史、佐藤信秋両参議院議員、県選出国會議員、国土交通省、同省東北地方整備局へ平成22年度の国交省所管事業に係る重点事業について要望を行った。

要望事項は次のとおり。

- ・地域活力基盤創造交付金について
- ・まちづくり交付金事業の促進について
- ・街路事業の整備促進について
- ・河川改修事業の促進について

- ・ダム建設事業の促進について
- ・海岸保全施設整備事業の促進について
- ・砂防事業等の促進について
- ・高速道路網の整備促進について
- ・地域高規格道路及び一般国道の整備促進等について
- ・地域の自立を支える地方道の整備促進等について
- ・道路施設の適正な維持管理について
- ・市街地再開発事業の促進について
- ・住宅・市街地の整備促進について
- ・在来幹線鉄道の整備に関する国の積極的



関与について

- ・環日本海シーアンドレール構想の実現について
- ・秋田港の重要港湾分類の見直しについて
- ・国による港湾施設の維持補修と一般公共事業債の適用拡大について
- ・港湾機能の強化について
- ・秋田空港の施設整備の促進について

県協会

業界の入職促進への取組

建設系高校生の特別教育を支援

県協会では、建設雇用改善推進事業の一環として、本年度新たに建設系高校生の建

設業への理解を深めるとともに、労働安全作業に必要な知識と技能を在学中に習得することを目的に「建設系高校生特別教育支援モデル事業」を創設した。

同事業は、学校長からの特別教育(技能資格取得)実施依頼に基づき、秋田労働局の登録教育機関である建設業労働災害防止協会(略称:建災防)秋田県支部に講習を委託して実施。

また、創設に至る背景として、若年建設従

事者が不足する状況を踏まえ、入職促進に向けた取組が求められていること、労働災害・事故を防止するためには早い段階での安全衛生教育が必要、学校教育を超えた教育が必要との意見や考え方が存在する。

講習には県内建設系高等学校10校中9校から200余名の生徒が参加、科目を小型車両系建設機械(バックホー・ローダー)の運転操作に限定し、7月22日から8月20日までの延べ13日間(学科講習含む)にわたり、(独)雇用・能力開発機構所管の「建設雇用改善助成金」を活用して実施した。

受講した生徒が所属する学校からは、▽生徒たちは学科ではだいぶ苦労したようですが、実際の建設機械の操作は生き生きとしてやっていた▽生徒たちの専門への興味関心の高揚と今後の就職活動の一助になればと思っている、との感想が寄せられている。



秋田水風景

文と写真／加藤隆悦

フリーカメラマン兼フリーライター
取材・執筆歴／旅の手帖、WoodyLife、ベンチャー・リンク、郷、あるる他
海外取材歴／ドイツ、アメリカ、ブラジル
写真塾・写楽 主宰／写真教室、撮影ツアー企画等

Vol. 5

生保内発電所

〔おほないはつでんしょ〕
仙北市生保内



下米町一丁目竿燈会・ 竿燈演技が行われました

秋田竿灯まつり3日目の8月5日、秋田県建設業会館駐車場で本会がスポンサーを務める下米町一丁目竿燈会が妙技を披露。炎天下の中、近隣より観覧者が集まり熟練の技を堪能しました。

（財）建設業福祉共済団から

建退共秋田県支部から

※上記の記事はホームページに掲載されています。

<http://www.a-kenkyo.or.jp>

情報コラム Vol.30

秋田県 条件付き一般競争入札に おける地域要件を見直し

平成21年9月1日公告以降の工事が対象

このたび秋田県では地場の建設業の地域貢献度・地域精通度等の観点から条件付き一般競争入札における地域要件を以下のとおり見直しすることとしました。

◎一般土木の地域要件を全県エリアから3ブロックに変更する。

（従来）1億円以上すべて：全県

（今後）1億円～3億円：3ブロック

3億円～：全県

※3ブロック：県北・中央・県南

なお、予定価格が3億円未満の工事であっても、高度な技術力確保、公共投資偏在の調整が必要な場合は、従来同様に全県エリアとなります。

高度な技術力確保が必要な場合の例

- ①総合評価落札方式（技術提案型）の場合
- ②特殊な工事で施工実績が少ない場合（トンネル補修等）

公共投資偏在の調整が必要な場合の例

- ①大規模災害からの復旧工事等

国道46号を秋田から盛岡方向に向かい、刺巻駅前を過ぎて生保内地区に入る手前、国道と秋田新幹線が並んで川を渡る区間がある。その橋の上から左手を眺めると川岸に1棟の工場然とした建物が見える。それが東北電力生保内発電所だ。予備知識がなくても「ああ、あれは発電所だな」と想像ができるのだが、ではその発電用の水がどこから引かれているのかというと、すぐには見当がつかない。

答えを言ってしまうと、それは田沢湖だ。発電所と田沢湖の間は小高い山が隔てられているので、互いの位置関係は地図の上で確認するしかないが、発電所から北西約3kmのところに田沢湖の取水口がある。

田沢湖の湖水が発電に用いられていると聞けば、湖岸の「たつこ像」あたりの水かさの変動が激しいのにも合点がいくのではないかと。田沢湖を代表する記念撮影スポットであるたつこ像は、台座部分まで歩いていける時もあるれば、台座の半分近くまで水位が上がったり、まった

く近寄れない時もある。水が引いている時は、生保内発電所がフル稼働したあとだと考えればいいだろう。

田沢湖をダム代わりに使うために導水されたのが、毒水とまで言われた強酸性の玉川の水。今の時代だったら開発反対の大合唱だっただろうが、戦時中のこととて、計画は無言を言わず進められた。案の定、田沢湖は魚の棲めない湖になってしまったのだが、近年は玉川の酸性水中和処理施設も稼働し、湖面に魚影を見ることが多くなってきた。少しずつ、田沢湖は生き返り始めているのだ。

また、生保内発電所が放水をすると、放水口の大先で大きな水のうねりが生じ、日本には珍しい大激流の様相になる。これはカヤック（カヌー）の一種「愛好家には「生保内ウェーブ」と呼ばれ、日本中のカヤックファンが一度は訪れてみたい憧れのスポットになっているのだとか。平和な時代ならではのレジャーだが、発電所が戦時中の計画によるものとすれば、いささか皮肉な話ではある。

お酒との、 ひよんな出会い・ こんな付き合い

あゆかわのぼる

ウイスキーは、50年近くひたすらトリス。3ヶ月に1回くらいジョニ黒を買い、年取りの夜にオールドパー。

なぜトリスなのかというと、最初に飲んだ洋酒がトリス。まだ若かったからそれ程飲む機会が多くなかったけれど、大抵がドブロク。それがサラリーマンになって寮に入ったら、初日の歓迎会に出たのが、トリス。これが美味だった。ドブロクと若干の清酒しか知らない山出しの若造にとって、ちょっとオーバーに言えば世界観が変わるほどの出会いだった。それが、ほぼ毎晩繰り返されたから、体の中にトリスがインプットされた。

ジョニ黒は30年くらい前かなあ。会社の指名で、香港・台北の研修旅行。研修旅行と言ったってメーカーの招待。当時のこのコースは、今では口に出すことも憚られる所謂国辱旅行。

香港に向かうキャセイ航空の機内で出された飲み物が、まことに美味なウイスキーのロック。目の前が満艦飾になった。この世に存在する味とは思えなかった。飛行機に初めて乗った田舎者には機内サービスというものがあることも知らず、注文もしないのに勝手に持ってきて、香港に着く頃は目玉が飛び出るほど請求されるのではないかと、薄っぺらな財布が気になる。チビチビやっていると、ご一行様のまわりの客が次々に注文する。隣の知り合いに「高いんでしょ」と囁くと、「ただだ」。

これが機内サービス、酒はジョニ黒と教えられた。

当時、国内で買えば、1万円札を出して釣りが来るかどうか。外国旅行慣れしているらしい隣の知り合いが、「香港の免税店に行けば3千円で買える」という。

飛行機を下りると真っ直ぐ免税店へ駆け付け、取りあえず2本買う。とても日本に帰ってから買えるものではないから、3泊4日の間はこれに浸ろうと決意。

観光地巡りの間も宿でも手放さず、おかげで、幸か不幸か、国辱的体験は免れた。

オールドパーとの出会いは20年くらい前。ある業界内で吝嗇でその名も高い人から、会社の忘年会に招待された。その席に鎮座ましましていたのが件の洋酒。飲んだことはないが高価だということは知っていたから、(やる時はやるじゃないか)とその人を見直す。

そして一口。ジョニ黒が足下に平伏し、こちら天にも昇るほどの芳醇な香りが体内に広がり、夢見心地。

何時か自腹をきって飲んでみよう。そして5年前の大晦日、我が家の年取りの宴の卓に上る事になった。

問題は焼酎。

焼酎を飲み始めたのも30年くらい前。旅館に婿入りした友人の家に、仲間が集まって飲んだ時、その席に出たのが、『紅乙女』と『大八』。

『大八』は今はないが、五城目町産の米焼酎。『紅乙女』の、香ばしさと包みこまれるようなふくやかな美味に、ラベルをみると福岡生まれの胡麻祥酎とあった。それまで。二十歳代の頃、しくじったドブロクで作った自家製の焼酎を三、四度しか飲んだ経験のない身に、これもまた、人生観を変える実

質、焼酎の初体験。

以来、私の座右には、トリスに加えていつしかこの二銘柄の焼酎が座った。そのうち大八がなくなった。20年近く前、民放のテレビ番組で草柳大蔵と仙台で対談した時、打ち上げが国分町の『おでん三吉』。そこで飲んだ焼酎を思い出して、同じ南秋産だから『三吉』にする。

ところがその焼酎である。飲み始めた頃は、紅乙女が少し高かったが、他は1.8L大体1,200円前後。それが政府の策略だろう、酒税のせいでドンドン値上がりして、最近では2,000円に限りなく近くなってしまった。おまけに高級品志向が強くなって貧乏人をいたぶる。

先に上げた二銘柄をメインにして、他にいつも5、6種類の焼酎を待らせているが、大抵貰い物。

値上がりの度に家人の顔色をうかがい、これではならじと、たまに1,200円くらいの、余り名前を聞いたことのない銘柄のものを買ってくる。ところが確実に不味い。

先日、宮崎産のいかにもそれらしいローカル色のある名前の芋焼酎を買ってきて飲んだら、これが苦くて喉にささるようなすこぶる付きの不味さ。書棚に並ぶ数冊の焼酎関係の本をめくったら、一応蔵の名前は載っていた。しかし、件の焼酎は取り上げられていない。もしかすれば焼酎ブームに便乗した後発品か。あるいは貞操観念の余り感じられない首長のミーハー的人気のどさくさに紛れて放出したものか。

それに乗せられたこちらがアホか。

別に言い訳ではないが、九州には小さな蔵で醸している絶品の地焼酎が多くあるという。その昔、友人の娘が九州男児に嫁いで、何度かその手の地焼酎を払い下げてもらったことがあるが、あれは美味かった。

本州の焼酎好きも、最近はずっかり喉が肥えてきたから、私のような味音痴でも、便乗売り込みなどはわかるようになった。バカにしているとそのうち足下を掬われるぞ。

本州にだっていい焼酎が生まれ、育ってきた。

わが秋田県も、昔は片手間、清酒造りの過程で生み出されたものを、行き掛けの駄賃的ホマチ稼ぎで売っていたが、最近はいろんな酒蔵が、本気になって焼酎を売り出した。大体が米焼酎だが、数年前に出たきくいも焼酎はちょっと捨てがたい。しかし、販売戦略、戦術が間違ったのか、きくいもそのものが大量生産出来ないせいか、何所でも買える状態にない。値段も少し高いし。

それにしても、何かせこい話になってきたぞ。

それで本物の飲ンベエと言えるのか。

で、ビールは。清酒は、とお訊きかい。

そうさなあ。ビールは、かつて水代わりに朝昼晩飲んでしたが、痛風に襲われ糖尿を患ってからほうがい程度。

清酒は、さて？ 最近ほとんど口にしなくなったナア。

昔は、蕎麦を食べる時なんぞ、小振りなグラスでいっぱい添えてもらったりしたもんだし、この季節となるとしみじみ飲みたいと思ったものだが、ナア。

飲ンベエの私がこれだもの。秋田の酒も苦勞する訳だ。

金融機関のシンクタンクの情報誌のデータを見ると、売上げが、毎月、毎年同月割れ、前年同期割れ。

近頃は、せつせと外国に活路を見出すべく通ってなざるようだが、どうだろうネエ。

足下を疎かにしていると足腰が弱って、何時かガクツときませんかねえ。

昔は「特級酒より美味しい秋田の二級酒」と言われたもんだが、ねえ。どうしたもんかねえ。